

平成20年度第1回和光市国際化推進懇話会会議要録

○日 時 平成20年5月22日(木)14:00から16:30

○会 場 和光市役所3階 第二応接室

○出席者 宮内邦雄、鈴木直幸、近長武治、田中明、遠藤葉子、原田豊造、宮嶋ひろみ、
山田浩人（敬称略）

○欠席者 塩野谷淳（敬称略）

○事務局 企画部長 成田、人権文化課長 牧野、人権文化課長補佐 河野、
文化国際担当統括主査 亀井、同担当主事 中村、国際交流員 阿久津

○配布資料

次第、名簿、最終報告(案)、最終報告(案)に対する意見書の概要及びコピー、Wako City Map(6種類)

◇ 議 題 ◇

冒頭、事務局より、いくつかの事項について、報告

事務局：外国人登録者数が増加し、市内を訪れる外国人も多くなっている現状に合わせ、市の国際化政策強化の一環として、国際化推進計画に基づく各種事業をより円滑に行うため、本年度より和光市国際交流員設置要綱を定めた。これに基づき、新たに非常勤特別職として位置づけ、国際交流員を設置した。職務は4つ挙げられる。

- (1) 市の国際化推進事業及び国際交流事業の企画実施に関わること。
- (2) 外国籍市民及び本市を訪れる外国人に対する接遇及び通訳に関すること。
- (3) 市の広報などの刊行物及びホームページ等の翻訳に関すること。
- (4) 本懇話会及び和光市国際ネットワークに関すること。

事務局：20年度事業の内容とスケジュールについて。日本語国際センターが主催として行っているワンナイトステイ事業を、20年度中に9回予定している。今月の10日に第1回の受け入れを行った。また、和光市が主催として行っているワンナイトステイ事業は20年度中に4回予定している。次に、ロングビュー市と姉妹提携を行った10月1日にあわせ行っているロングビューウィークを、今年度も10月1日前後に、市役所と中央公民館で、中学生海外派遣の様子などのパネル展示等を予定している。次に、和光市国際ネットワークによる市民まつりへの参加も引き続き予定しているが、時期については、市民まつりが5月から11月に変更になったことから、今年度は11月になる予定である。次に、18年度に実施し、好評であった外国籍市民と市長との懇談会を、今年度は12月ごろに開催したいと考えている。20年度事業については、以上である。

事務局：本日配布したWako City Mapについて説明する。こちらは、前回会議で話しが出た外

国人向けの地図である。わかりやすい日本語、英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、タガログ語の6種類作成した。すでにホームページに掲載している。また、人権文化課及び戸籍住民課の窓口で外国人向けに配布したい。

近長委員：これは、市長と外国人との懇談会のときにこのような話題があり、市長が是非そういうものを作ろうと言った事から制作したと伺っている。良いことを和光市として行ったな、と思っている。実のあるものにするために、二つばかりお願いしたいことがある。一つは、この地図を持って市長が実際に歩いたらどうかと思う。その歩いた様子を広報に写真入りで載せれば、和光市も市長が陣頭に立って国際化推進をしていると分かるのではないか。二つ目は、和光市に住んでいる外国人の方にどのようにこの地図に親しんでもらうかということ。地図を作って配布するだけでは、実際にどの位役に立つかわからないわけで、機会を見つけて説明してはどうか。外国人がこの地図を使ってみると良し悪しがわかるかもしれない。図書館はすぐ分かるが、ゆめあい和光とは何をするとこるなのか。これを使う手引きみたいなものが欲しいと意見が出てくるかもしれない。そういうことをすると県内でも誇れる和光市の地図になるのではないか。

山田副会長：今回国際交流員を新たに設置したということであるが、前任者と今回の方と具体的にどの様に違うのか。

事務局：平成19年度までは国際交流推進員という名称で、通訳や翻訳を時間給でお願いしていた。今年度は非常勤の特別職という名称で設置した。例えば、どこかの公共施設で通訳などがあった場合、出向いて通訳することも出来る。

山田副会長：この地図の配布場所は市役所内だけですか。公民館とか出張所は。

事務局：今のところは、人権文化課及び戸籍住民課である。他にも駅などで配布するかどうか検討している。

近長委員：外国人登録のときに説明するのがいいと思う。

山田副会長：国際化推進ということで、和光市がこういうことをしていると分かると思う。

近長委員：この地図の利点としては、こんなことも考えられる。例えば、市役所という言葉が韓国語でどう書くのかが分かる。読めなくても指差せばわかる。

宮内委員：国際交流員の非常勤の方の説明がピンとこない。週のうち、連絡が取れる日が決まっているのか。いつでも対応できるのか。

事務局：週22時間以内という決まりがあり、今は15時間で月水金に勤務。

宮内委員：具体的にどういうことを相談できるのか。翻訳もある。英語の対応か。

事務局：英語の対応だ。困りごと相談のようなことは業務にふくまれていない。

近長委員：和光市の国際交流員があらゆる問題に対応できるはずはないので、市役所内の他の部局と連携して、この問題はどこに相談すれば解決できるかというような形で、何らかのアドバイスができるようにしてはどうか。

宮内委員：理研には、色々な国から人が来ていて、言葉の問題でも苦労があると思う。そうい

うところでのノウハウとか、できるなら和光市に提供してもらえないか。

遠藤委員：外国人の生活を支えるのが理研でも問題になっている。幼稚園や小学校に入るなど、決まったことなら案内しやすい。病気になった場合や、出産等で病院にかかることがあるが、プライベートな内容だから知られたくない人もいるし、頼るところがなく頼る人もいる。病気がうまく治れば良かったということになるが、あまり良い結果でないと、日本で治療を続けるか、祖国に帰るか、ということになり、スタッフも情が移りダメージを受けることもある。理化学研究所はそういう場合にケアをするスタッフもいるが、和光市では困っている方が沢山いると想像できるし、どういう風に取り組みればいいのか。難しい問題である。国際交流員を市民にお知らせしないのか。

事務局：国際交流員の設置目的が、外国人に対する相談窓口だと思っているようだが、そういうことでは設置していない。相談窓口が必要だと十分認識しているが、予算や人材の面でも対応が難しい。国際交流員は、英文ホームページの提供、申請手続きの通訳とか、市内部の業務に関し、英語で提供できるように設置している。いずれは、相談窓口も検討していかなくてはならないと考えている。

鈴木委員：去年 11 月に日本語が全く出来ない中国籍のこどもが入ってきた。学校には特別支援コーディネーターがいるが、すべてに対応できるわけではない。書類が中国語のものがない場合、趣旨を説明して代筆しないといけない。小学校に上がる時は、就学案内というものがいくが、外国人には日本の小学校に行かなくてはならないという義務はないが、案内はしなくてはならない。外国語でも対応しなくてはならないが、和光市はやっていないようだ。役所の中でも何ヶ国語か出来る人もいるから、中国語、タガログ語、英語の 3ヶ国語くらい窓口で配るべきだ。地図に関して、欲を言えば一枚にすべて記載されていれば使いやすかったのではないか。

1 和光市国際化推進懇話会最終報告について

※ (1) 最終報告(案)の検討に入る前に、意見書を提出した各委員から、意見書の説明

① 市民海外派遣事業について(意見書を提出した各委員からの説明)

原田委員：ロングビュー市との 10 周年記念事業のことだが、ただ単に派遣するだけでなく、目的意識を持ってきめ細かく内訳を考えたらどうか。

近長委員：市民派遣事業はどんな意義があるのか。なんでロングビューなのか。姉妹都市協定は、どのようなことを目的として結んだのか。姉妹都市を結んでみたところで、具体的な成果はなかったのかもしれない。あるとすれば中学生の派遣だが、ロングビュー市と姉妹都市になる前からやっていた。今までの経過から特に反省すべきことは、市が姉妹都市との交流活動として実施する事業であるからには、単に参加者だけではなく、市民全体に幅広い裾野を持つようなものにしなければならないということだ。日頃からロングビュー市との地道な活動を実施してから市民派遣事業を考えれば良い。

平成 21 年度が節目だというのが、地道な活動を、単発ではなく継続的に実施したらどうかと思う。つまり、ロングビュー市に対する市民派遣は平成 21 年には実施しないということ为前提にしたうえで、せつかくの姉妹都市関係を活かすようにするには、どのような方策が大切なのかを考えるべきだ。

② 国際化推進施策について(意見書を提出した各委員からの説明)

原田委員：リーダーシップのある外国人を何人か養成し、この人と思える一人か二人を中心にボランティア等として話し合いに参加していただければ具体的な悩みがわかると思う。

山田副会長：情報提供に関してだが、中国での地震の際、中国ではボランティアが少なく、被災した外国人と連絡がとれない問題があった。実際自分の知り合いも、自分たちが住んでいる近くの避難場所が全くわかってない。そういうことに対して、市やボランティアがすることは多くある。情報の公開、市民の通訳ボランティアを一刻も早く作って欲しい。国際理解教育の更なる充実ということに関しては、コーディネーター的な役割をする人がいないので、国際交流員が、交流というよりコーディネーター的なこともやって欲しい。国際ネットワークの充実については、ネットワークに外国人市民がメンバーにいないのはおかしい。実際に彼らに耳を傾けて、解決方法を考えるのが国際推進の第一歩。埼玉県国際課では、インターネットで外国人に 1 年から 2 年間登録してもらい、医療に対して、学校教育に対してなど諸問題に対してインターネットで意見を募り、年に 1 回か 2 回ミーティングを行っている。是非、和光市もそういったことに取り組んで欲しい。

③ 姉妹都市について(意見書を提出した各委員からの説明)

原田委員：これからは東南アジアの時代だ。ロングビュー市 1 市だけではあまりにも少ない。しかも十分な交流をしてない。理化学研究所などの大きい組織があるから、なにか糸口はあるはずだ。なんとしても姉妹都市を 2 つ 3 つにしてみたい。

山田副会長：姉妹都市について、今の状態では目的がはっきりしない。ロングビューウィークは、パネル展示だけでなく、向うからゲストを招き、青少年交流、文化交流、経済交流、課題解決型交流を通して、市民全体の相互理解と市民全体の交流を充実するため、コーディネーター的なことを出来る人間の存在が重要だと思う。

(1)最終報告(案)の検討

① 市民海外派遣事業について ② 国際化推進施策について ③ 姉妹都市について

近長委員：結論的に言うと、平成 21 年度の 10 周年の節目に、市民海外事業を実施すべきかどうか。実施するのかどうか。実施するのが適当だという方向で報告書をまとめるのか。あるいは 10 周年の節目で、海外派遣事業の代わりとなる記念するものを実施するのかが。

何もやらないのか。いろいろな選択肢を考えて、検討すべきだと思う。

田中会長：10周年の節目で海外派遣をするのか。別の方向を見出すか。ということか。

鈴木委員：昨日、和光市の中学生の海外派遣生徒選考委員会の会議があった。派遣の募集要項には和光市中学生海外派遣事業の趣旨として、21世紀の日本を担う中学生を、姉妹都市である米国ワシントン州のロングビュー市等に派遣し、現地の人と交流や文化遺産等の見学を通して、豊かな国際感覚と日本人としての自覚と責任を身につけ、将来わが国の地域社会に貢献する人材を育成する。と謳われている。市の考えやメッセージを送ったらどうか。という意見があったが、もちろん可能だ。帰国報告会もしっかり行っている。来年度は提携10周年の記念だから是非日本に来て下さいというのも、返事は分からないが、可能だと思う。中学生がロングビューで色々なことをするのは歓迎してくれていると報告を受けている。今年も和光から中学生が来たということで、町ぐるみで歓迎してくれているようだ。

原田委員：向うから来るというのはないのか。

鈴木委員：姉妹友好提携が趣旨だから、双方向の交流をしなければならない。子供たちを選考するにあたっては、海外派遣にどうして行きたいのか課題を与えて書いてもらっている。皆非常にきちとした考えをもっている。やってきたことを校内で発表して、それを聞いて、「来年私も行きたい」ということで、申し込む生徒もいる。市民の側にも広げたい。行政側にもお互いの交流になれば本来の姉妹友好なのではないか？

近長委員：そういうPRをしないといけないのではないか。かねてから一方通行的な交流ではないかという批判がある。先ほど宮内先生が言った様に、国際理解とは、自分と違う人をあたたかく迎える心だと思う。もう一つはプライドだ。プライドは他人に対して正々堂々と話せるということだと思う。中学生の派遣される人が、外国の人にプライドを持って自分のふるさについて話ができるということが非常に大事。ただもてなしを受けたということだけではなく、ロングビュー市を材料にし、和光市では中学生に国際理解教育をやっているとすれば一方通行という批判が段々うすらいでくるのではないか。

宮内委員：国際会議を経験し、一番大事だったのは、日本人って素晴らしいと思われるように接触しないと結局馬鹿にされるということ。費用対効果みたいな感じで、こっちは行くけど、向うからは結局一人も来ていないのではないか。という考え方はちょっと違うと思う。向うに行って、日本人と友達になってもらって、それで帰ってくれば、世界における位置づけというものにプラスに効果する。

田中会長：最終報告案の2ページの(1)、下から5行目のところだが、「このような講座や・・・」を強調できれば良いのかな、と思う。選択肢ということで含めると、強調することも必要なのかなと感じる。

近長委員：(1)に関して言うと、「講座や勉強会を開催云々」というところか。「図書館や公民館

が云々」とあるが、公民館で外国講座とか外国の料理教室とかやっている。外国のことをやると国際交流だと単純に思っているのか。中央公民館で色々な講座をやるときに、一つの理念とかがあるほうがいいのではないか。最近、公民館の主催する講座の在り方について、専門家は、もう行政がカルチャースクールのようなことをするのは終わったと言っている。市民による生涯教育活動が活発になっているのだから、むしろ行政としては、その活動場所を整えるなど、市民活動の活性化を支援することに重点を置く方が良くはないか。もちろん、行政がきちんとした理念や目的をもって講座を開くのであれば、意義があると思う。公民館でロングビュー市関連のことをやることはカルチャースクールではない。例えば平成21年度は、公民館での講座をロングビュー市との交流を主流にした講座一色でやってみてはどうか。10周年記念というキャッチフレーズで、来年度に限りやってもらいたい。図書館にはロングビュー市から寄贈された図書があるが、あまり活用されてない。だから、十分活用されるようにやるとか。

遠藤委員:(1)の最後から5行目だが、「英語学習の機会を設けてはどうか?」というところだが、その人の努力というよりも市からのお膳立てになってしまう。そもそもロングビューに行くことを希望する人にはある程度の英語力を求めるべきだし、決まってからも自分で勉強することはできる。そのための英語学習の機会をわざわざ設ける必要はない。ロングビューに関する勉強会を設けるという案は良いと思う。(2)の上から4行目、「報告会を充実させること」という部分であるが、行った結果というのが市民に目に分かる形になっていないと思う。市役所に飾るといっても市役所に行かない人は多い。図書館とか公民館とかに展示するなり考えていく。飾るための報告レポートも作らせるべきだと思う。

田中会長:一年前から英語学習をするかどうか。その必要はないのではないかという意見もあった。報告会を充実させるというなかで、市民の目にみえるようにということである。

宮内委員:遠藤さんが言った英語学習は私も同感だ。

近長委員:ロングビューに限れば、英語ができるかどうかはあまり重視しなくても良いのではないか。ロングビュー市が今の姿になるには、どのような経過をたどってきたのか、そのような歴史を知っておく必要がある。また、ロングビュー市の人たちは、自分たちの町についてどのようなふうを考えているのか。行政面だけではなく、市民活動はどのように行われているのか。さらに、日本や和光市について、どのようなことに関心があるのか。他方、われわれは、ロングビュー市の人たちに和光市や日本のことについて、どのようなことを知らせたいのか。このようなことを地道に考えていかないと、姉妹都市関係は、皮相的なものになってしまう。来年は、ロングビュー市に行くための勉強ではなく、ロングビュー市を知るための事業、ロングビュー市との関係を考えるための事業をやってはどうか。

- 宮内委員：英語を話す人たちの色々な感性等を知るには日本語だけでは知れない。外国に行こうとする人は、その国の人に心を開き、言葉も拒否反応を持たない方がいいと思う。
- 近長委員：(1)のパラグラフに書いてあることと、鈴木先生が中学生を選考する際の着眼点と、かなり共通している。ロングビュー市の勉強会などで、場合によっては中学生の体験だとかを色々聞くのも講座の一つかもしれない。
- 鈴木委員：教育委員会の指導主事の先生も一緒に引率するので、その方に公民館とかで話しをしてもらうことを、教育委員会にお願いするのは可能かもしれない。
- 近長委員：ロングビュー市の地図や歴史などそういうのを組み合わせると、5、6回の講座に企画できるのではないかと。中学生がロングビューに行くのに対して勉強したことを成人版に出来るかもしれない。
- 田中会長：(1)も(2)も、意見をまとめる上で、こういう風をお願いしたいというところから入らなくてはならないのに、市の方法論になってしまう。別枠の添付資料のような形でいろいろな提言を書くことは出来ると思うが。
- 近長委員：基本的な事を書いた上で、「例えば」と書いて提言するとかということか。
- 田中会長：その通りだ。先ほど遠藤委員から意見があった。「実際ロングビューに行くことを希望する云々」とある。ここは削除する形でよいか。「考える」まででよいか。「このような講座や勉強会・・・」というのは、上の文章も受けているから。どのあたりで文章を切るか。「また～効果的でないかと考える。」までを削除して良いか。
- 近長委員：(1)だが、その前の文章もある。私たちの団体が載っているが、「事業効果として云々」を直して欲しい。事業効果としては、国際交流のきっかけになった、ということである。第一点として、行った人を対象に、初めて市が行ったアンケートについて書いて、二番目に、「第1回派遣事業の参加者の有志により云々」と書く。「市民全体に幅広い視野を持つようにしなければならない。そのためには云々。」と書く。本題の市民派遣事業については、改めて実施の可否を検討することにしても良いし、1～3年延ばすと書いても良い。
- 田中会長：それではそのような形で直す。それと、実施年度を1～3年延ばすという選択もあると。あるいは市民海外派遣事業を一度打ち切るという形もあるが。
- 遠藤委員：懇話会としての意見であるから、選択肢も一つの方策であるということ。あとは市の方に考えてもらうということ。
- 田中会長：「また～考える。」までをカットして、「このような～方策であると考え。」まではそのままという事で。(2)の中で、「報告会を充実させる」という中に、「市民の目にわかるように」ということをいれてもらえれば分かりやすいのでは。
- 宮嶋委員：市の広報の中に、毎月記事を載せることは出来るのか。広報は誰でも見ている。自分の時間のある時に見る事ができる。そうすれば、市民の目に触れる。
- 近長委員：(2)の「帰国後の市の国際化推進事業への協力」というところが、行った事となると、

1～3年延ばした後ということになってしまう。今、宮嶋さんの言った事は、行っても行かなくてもやっておくという話しだ。

宮嶋委員：勉強会をするということも、出来れば広報に載せればよい。興味を引くような記事を見ているか見てないかで、勉強会の集まり方も違うと思う。

近長委員：一つの案であるが、(1)の最後のところで、「このような講座云々」と。それから、今の帰国後の報告会。「市民派遣事業については」と書いて、これを(2)にして「このような講座や勉強会を開催したうえで、実施年度を1～3年延ばすという選択も一つの方策である」と考える。」と。市民派遣した場合には、帰国後その経験を市民にアピールするため、きちんとした報告会を実施すると。と一応終えておいて、宮嶋さんが言った事は、ロングビュー市の広報活動ということで、(3)をもう一つ起こし、定期的にロングビュー市の記事を広報に載せるとか、ということにしておく方が良いのではないか。

田中会長：市民派遣事業についてはこうしたほうがいいよ、と意見書にしておくほうが良いと思う。市がこうした方が良いという方法論と市民の意見書とは違う。方法論まで入る必要はないと正直私は思う。懇話会から、方法は市に揉んでくれないか。というのは意見書に入れることができるが、方法論までは無理だと思う。

事務局：議論なさっているロングビュー市のPR関係の事は、3の姉妹都市についての(1)にある。

近長委員：姉妹都市というのは、ロングビューにだけ限るなということだから、ロングビューに関することは1にもってきたほうが分かり易い。表題を市民派遣事業及びロングビュー市という風に。市民海外派遣事業が、ロングビュー市だとわかるように、表題をはっきりすべき。PRも入るなら、後ろにつける。市民の中でロングビュー市と姉妹都市だということが知られてないと思う。

田中会長：正直私は違和感が全くなかった。一つに市民海外派遣事業はこうなのだ、二つ目の国際化推進施策についてはこういう風にして欲しい、今後の課題として姉妹都市はこうなのだ、完璧ではないかもしれないがそれなりに適している。その一方で、英語の云々と強制的なものがあつたりしたというのが一点と、一年延ばすことは良いのかなど。それと報告会という事が非常に頭に巡ったのだが、市民の目に本当にわかるように充実させるという風には書ければ良いと思った。

近長委員：姉妹都市全体として市民の裾野を広げると考えると、色々な研修会や日常的なPRがあつて、そのメインイベントとして市民派遣事業があると。その三つを議題として取り上げないといけない。市民派遣事業の(1)の最後のくだりと、(2)の報告会とは市民派遣事業の直接関係するものとして書いて、市民派遣事業が実施されなくても、ロングビュー市の日常的なPRや年に1度くらいは広報にロングビュー市長からメッセージを載せることなども考えられる。それが大事だと思う。

事務局：姉妹都市というのが3番目だったが、これを2番に順番を換えれば、市民海外派遣が姉妹都市につながって、国際推進が最後になる。

近長委員：姉妹都市の3の(1)はここに書きちゃいけないということだ。研修会ということと別に日常的なPRがあって、もう一つ市民派遣事業ということがある。市民派遣事業は、行ったら報告会もきちんとやらなくてはいけない。市民派遣事業がなくてもロングビュー市との交流については市民にフィードバックがある。

宮内委員：考え方としては良い。ロングビュー市ありきで出す報告書と国際都市和光市という構想、理念で出す報告書とでは全く違う。国際化推進施策について考えると、ロングビューでもアジアでも通用するものを考えないといけない。理念を最初に考えて、理念にあったものを次に考える。ロングビュー以外に関して、和光はどう考えるのか。基本理念があって、現在があって、未来があるという考え方が一番良い。

近長委員：基本計画に今年度はロングビュー市への市民海外派遣事業というのがあって、実施の作業を含めて課題になっている大前提がある。3に書いてある姉妹都市は、ロングビュー以外の事は考えないのかということだ。この(1)だけ前に持ってきたほうが良いのではないか。

宮内委員：今の意見に反対していない。

原田委員：わたしもそう思う。

近長委員：PRのことも、広報わこうにこれくらいのコラムをやるということは、10周年の仕事としては、そんなに無理な注文ではない。ロングビュー市の市長に手紙を出して、メッセージを貰ったときは、大きな写真入りでやれる。

田中会長：市民海外派遣事業で止まっている。議長として失格だが、それを一つにまとめるのは困難な気がする。削るところははっきりした。「帰国後の」と、謳っているので、くどくど言っているけどどうかと自分では思う。皆が言った事を書き直し、最終報告としてまとめて送っていただきたい。おかしい言い回しなどを直すかたちでどうか？

宮内委員：さっき言われた姉妹都市の3(1)のところ。この文章全部を1の(3)として入れたらどうか。持続した啓発活動というところからみても(3)とした方が良い。

田中会長：1の(3)というかたちで。そして3の(2)が(1)。3の(3)が(2)ということで。抜かしてしまったが、国際化推進はどうするか。私は、文章的にはこれで良いと思う。市民海外派遣については、新たに一つ加えて(1)(2)(3)という形で決まった。細かく懇話会から指示するのが筋だが、事務局で見直しいただき送ってもらうということでよいか。

宮内委員：こんな風に出来たら素晴らしいということでは異論はない。出来るのであれば、やれば良い。喜ぶ人が一人でもいるなら、力があるならやってあげれば良い。

田中会長：出来た時点で、私と山田副会長に送ってもらい、チェックをする。事務局に返し、皆さんに再度確認してもらい、懇話会の報告という形にしてよいか。

(2) 今後のスケジュールについて

事務局：今後のスケジュールについて会長から話のあったとおり、事務局でまとめた内容を会長・副会長に見ていただいて、最終的な提言とする。本日をもって予定されている任期中の会議は全て終了しました。会長・副会長をはじめ委員の皆には、長期にわたり審議をいただき誠にありがとうございました。

田中会長：7月いっぱいということであるが、若干ずれ込みがあるかもしれない。今後のスケジュールだが、皆の話を纏め上げ事務局にあげられなかったことに責任を感じている。これで議長の職を解かせてもらう。ありがとうございました。

事務局：本日の会議が7月31日までの任期中で最後となるので、ここで企画部長の成田からお礼の挨拶を申し上げる。

企画部長 成田：非常に熱心に議論していただいた。国際交流全般に渡っていろんなことを検討してもらった。話しの中にも出ていたが、和光らしいまちをどうするか課題になっている。副都心線がダイレクトで渋谷からくる。色々な条件の中で、外国人が多いまちというのが特徴となる。そういう中で、県と理研と市が中心になって、外国人の住みやすいまちづくりにしようとしている。色々な面で具体的にヒントとなることがあった。7月に提言することになっているが、非常に楽しみだ。提言書を市の方で尊重して、今後国際交流事業をすすめていきたい。これで任期は満了となるが、今後も国際交流以外にも、市の事業に協力して欲しい。ありがとうございました。

事務局：長時間に渡り、大変お疲れ様でした。これで平成20年度第1回和光市国際化推進懇話会を終了する。